

18年10月世界市場サマリー

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ
代表 伊藤 武

9月21日に史上最高値を更新した米国株式市場は11月に入り急落を演じました。一気に投資家心理は冷え込み、多少は戻していますが、不安定な状況を呈したままとなっています。一部では、10年間続いた大ブルマーケットは終わったとの観測となっています。米国企業収益成長も峠に向かい、それと同時に金利は明らかに上昇基調に転じ、貿易戦争の懸念から、中国経済は減速基調となってきました。

世界政治も不透明感が高まり続けています。英国はブレクジットが正念場を迎え、ドイツではメルケル首相が党首の座から降りることとなり、懸念されたブラジル大統領選挙では極右と称されるボルソナロ氏が当選を果たしました。中近東はサウジアラビアのカショージ記者暗殺事件を引き金に、きな臭さが高まっています。米国は来週11月6日に中間選挙を控えています。トランプ大統領はすべての政治力を駆使して共和党の勝利を求めています。

近年選挙予想は外れる可能性が高まっていますが、米国上院は共和党がほぼ過半数を手中に収めそうです。下院では民主党が依然としてやや有利とされていますが、どちらかというところ共和党が追い上げてきています。米国政治の行方は、大学教育を受けた女性票と高等教育を受けていない男性票の一騎打ちとなりそうです。それら女性票は大きく民主党に靡き、逆にそれら男性票はますますトランプ支持を強めています。先月も述べましたが、予想通りとなれば相場は中立に、共和党両院支配となれば、取り敢えずは好感されそうです。いずれにせよ、目先の相場は不安定に推移することが予想されます。

10月25日、市場が荒れているさなかに、不安ではあるが敢えて押し目買いに転ずるべきとの考えを述べました。米国株式市場は新高値を更新しつつも、強気が支配するのではなく、成り行き任せながら警戒感が高まっています。その環境で、企業収益及び経済成長が減速するとしても、成長そのものは堅持され、2019年通期程先まで不況到来の可能性は低いことを指摘しました。企業収益の成長に伴い、株価の割高感は強くありません。それよりも、今後は株価と債券利回り動向がより大きく市場に影響を与えると観測します。追加投資後、しばらくは模様眺めが適切であると考えます。

先月は、遅行する金価格の流れを述べ、辛抱をお勧めしました。やはり、相場が波動状態になれば、金は本領を発揮し上昇に転じました。今まで通りヘッジとしての役割を期待すべきでしょう。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。